

ホールに鳴り響く、ピアノの音。 そこから漏れ出る、記憶と現在。

村川がリサーチの過程で注目したのは、文化会館で数多く開催される「ピアノ発表会」。そこに耳を澄まし目を凝らした先に聞こえてくる小さな物語。人生と音楽が交わる「劇場」で、わたしたちが目撃するものとは。

構成・演出 | 村川拓也 ドラマトゥルク | 林立騎

舞台監督 | 浜村修司 照明 | 葭田野浩介 音響 | 小早川保隆

制作 | 清水翼 演出補佐 | 長澤慶太 地域ドラマトゥルク | 杉本奈月、田中愛美



村川拓也

演出家。1982年滋賀生まれ。京都市在住。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。1人のキャストとその日の観客1人を舞台上に招き、介護する／されることを舞台上に再現する『ツァイトゲーバー』(2011年)、村川から事前に送られてきた手紙(指示書)に沿って舞台上の出演者が動く『エヴェレットゴーストラインズ』(2013年)などの作品群は、虚構と現実の境界の狭間で表現の方法論を問い直し、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。

【チケット】

全席自由

一般—————2,500円

ユース(25歳以下)————1,500円

シニア(70歳以上)————1,500円

5演目チケット————5,000円

※車椅子でご来場の方は、事前にロームシアター京都チケットカウンターまでご連絡をお願いします。

※未就学児童入場不可

※ユース、シニアチケットご購入者は、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書(学生証、保険証等)をご提示いただき、入場券とお引換えいたします。

●ロームシアター京都オンラインチケット
24時間購入可 <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>
要事前登録(無料)

●ロームシアター京都 チケットカウンター
TEL.075-746-3201
(窓口・電話とも10:00~19:00/年中無休 ※臨時休館日を除く)

●文化会館窓口
(窓口・電話とも9:00~19:00/毎週火曜日 ※臨時休館日を除く)
京都市西文化会館ウエスティ TEL.075-394-2005

●京都コンサートホール チケットカウンター
TEL.075-711-3231
(窓口・電話とも10:00~17:00/第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)

演出ノート

はじめて西文化会館に行ったのは今年の4月で、まずはその地域に住んでいる人たちがこの会館でどのような催しをやっているのか見学させてもらうことからはじまりました。最初に見学したのは、地域のピアノ教室が主催しているピアノの発表会でした。また別の日に西文化会館に行ったのですが、これがまたピアノの発表会で、実はその次に行った日も、その次に行った日もたまたまピアノの発表会で、結局立て続けにピアノの発表会を4回見ることになりました。4回目を見終わった後、もうその頃にはピアノの発表会を題材にしようと決めていました。

それからいくつかのピアノ教室にお邪魔して出演者を探しはじめました。一見、普通のピアノ発表会に見えるけど、少し違和感を感じるような作品を構想していたのです。しばらくして、偶然ある人に出会いました。その人は70代中盤の男性で、ベートーヴェンの「月光」をずっと弾き続けていると言いました。この男性が今回の作品の出演者となるのですが、いま彼の家にお邪魔していろいろな話を聞いているところです。家には娘さんのために買った茶色のアップライトピアノがあって、ときどき「月光」を弾いて聞かせてくれます。とくに防音設備などはないのですが、近隣住民から苦情が来た事はないようで、でもいちおう窓は閉めるし、夜の9時以降は弾かないと言っていました。それから、ピアノの発表会をそのまま再現するという構想から少しずつズレが出てきていて、どういう風にズレたのかは本番にならないとわからないですが、彼に引っ張られるようにして元々の構想から少しずつ離れつつ、でも発表会という形式は残るだろうなあとか思いつつ、今は彼の家でとにかく話を聞いています。時々、グラッパというアルコールの強い酒を彼は用意してくれます。

村川拓也



京都市西文化会館ウエスティ

京都市西京区上桂森下町31番地の1

阪急嵐山線 | 「上桂」下車徒歩約15分 市バス29-69系統 | 「西京区役所前」下車約2分
市バス73系統 | 「平和台町」下車徒歩約5分、「千代原口」下車徒歩約10分
京阪京交バス | 「千代原口」下車徒歩約10分